

内水試

かわら版

54号

いない!?

「霞ヶ浦、北浦で、イサザアミが全くみられない」ということは、「かわら版」53号で既にふれまわった。しかし、その後テナガエビやハゼ類についても、全く姿がみられないというところが次第に判ってきいよいよだ。

今、霞ヶ浦、北浦では、ハゼ類、イサザアミ、エビの三魚種で、漁獲量、生産金額ともに、全体の約七割近くを占めています。(五十七年農統調べ)

このように重要な魚種が、獲れなくなった理由については、残念ながら確信を持って答えることができません。

しかし、重大な問題です。で、途中経過ですが報告したいと思います。

これらの魚種がいなくなった原因は、別々にあるのではなからかと考えていますので、魚種ごとに書きます。

◆ イサザアミ ◆

イサザアミの漁獲量は、かなり年変動がありますが、五十二年以降の北浦での漁獲の激減は、今迄の年変動とは明らかに異なっています。

また、五十八年春の霞ヶ浦では、例年と違って五月に

入ってから獲れ始めています。このように、イサザアミは今年だけでではなく、以前から異常がみられています。

この異常な現象が起きてくる時の湖水を調べてみると、塩分量の低い時期と一致してきているように思われます。

今の霞ヶ浦、北浦の水は、流入してきた海水が、段々と薄まった状態ですので、先祖が海に住んでいたイサザにとつては、異合いが悪いのかもしれない。しかし、五月中頃から北浦の奥で一隻当り三〇kg前後獲れ始めています。

◎ テナガエビ ◎

エビは去年の暮まで豊漁で、今年に入ってからいなくなりました。

茨城内水試

今年の冬は異常低温で、その期間も例年になく長かったようです。エビがいなくなった時期や、ニルに死んだエビが獲れた話し等を考えますと、異常低温の影響を受けたりではないかとも思われます。

※※ ハゼ類 ※※

ハゼ類については、去年の秋から少なくなっています。この時期に獲れるハゼは、ハゼ類の半分以上を占めるチチブで、チチブの子供が漁獲対象となりません。なせ子供が育たなかったか、春に獲れる種類、ハゼが獲れないのはなぜか。今調査中です。